

竹下復興大臣定例記者会見録

(平成26年11月4日(火) 8:35～8:38 於)復興庁)

1. 発言要旨

今日は、特に発表することはございません。

2. 質疑応答

(問) 先週末、宮沢大臣が福島第一原発を視察されましたが、大臣ももしご予定があるようでしたらお教えいただけますか。

(答) 今週は行けませんけれども、その次の週から、また被災地に何回か入ります。週1回か、2週に3回ぐらいのペースで、入り続けようと思っております。今週は、土日は沖縄の選挙の応援に行きますので、それで行けないのですが、沖縄の選挙が一段落すれば、また定期的に行こうと思っております。

一番頭が下がるのは、天皇皇后両陛下が、本当に丁寧に被災地を回っていただいていることをごさいまして、まさに日本国の安定といいますか、安心の土台なのだなということを痛感をしながら回っております。

(問) 今日、昼間の衆議院の本会議で、環境省の所管ではあるのですが、福島の中間貯蔵施設の関係で、県外30年以内という処分を定めた法案が、衆議院の本会議で採決があると思うのですが、この法案に対する大臣の考え方をお聞かせください。

(答) 2つありまして、1つは、中間貯蔵施設に、それを最終処分場まで30年で移すという、これは技術の開発とともに、必ずやり遂げていかなきゃならんことである、ということが1点でございます。

もう1つは、中間貯蔵施設への、今、あちこち、仮置場にあったり軒先にあったり、道路脇に置いてあったりするもの、除染した汚染土等々を、どうやって運び込むかという、膨大な量ですので、これは知恵をしぼらなきゃならん部分はあるなど。望月大臣が、今、懸命になってこれをどうやってやるかということを、具体的に検討しているらしいんですが、我々も、現地に一番溶け込んでおるのは復興庁のメンバーでありますので、そのメンバーがご理解を得るよう努力をしていかなきゃならん。環境省マターではありますが、政府挙げて取り組まなければならない課題だと思っております。

(問) 大臣、昨日、誕生日を迎えられまして、おめでとうございます。

(答) ありがとうございます。

(問) 今年一年の抱負をお願いできますでしょうか。

(答) 誕生日、欲しければ、あげますよ。もういりませんので。もう68になりましたので、残りの人生、しっかりとやっていこうと思っております。

(以 上)